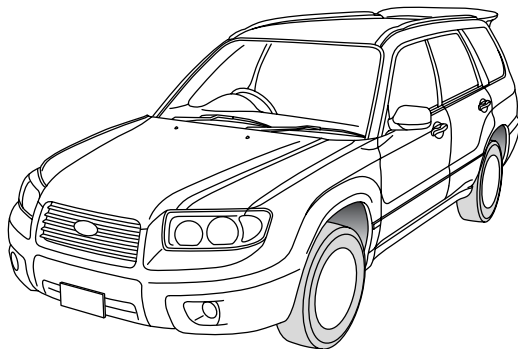


## このたびは「フォレスター」を お買い上げいただき、ありがとうございます。

本書は車両の取り扱いかたについて必要事項・重要事項をご説明しています。  
安全で快適にお使いいただくために、ご使用前に必ずお読みください。  
また、法律で使用者に点検・整備の義務が規定されており、使用者の保守管理責任がう  
たわれております。別冊の「メンテナンスノート」と併せてお読みください。



- 交通ルール・マナーを守り運転しましょう。
- 自然環境保護にも気をくばりましょう。
- スバル販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。
- 保証内容および点検整備については、別冊の「メンテナンスノート」をお読みください。
- 取扱説明書は「メンテナンスノート」とともに、お車に保管してください。
- お車をゆずられるときは、次のオーナーのために保証の有無にかかわらず取扱説明書、メンテナンスノートをお車につけておゆずりください。
- 装備については販売店でカタログをご請求ください。
- ご不明な点は担当営業スタッフにおたずねください。


車の仕様などの変更により、本書の内容がお車と一致しない場合がありますので  
ご了承ください。


# 本書の見かた

## 表示やマークについて


### 安全に関する表示

車に乗っている人や歩行者を含めた他の人が、傷害を受ける可能性のあることや、車体が損傷する可能性があることを、回避法とともに示しています。


 <b>警告</b>	指示に従わないと、死亡、または重大な傷害を負う可能性があります。
---	----------------------------------


 <b>注意</b>	指示に従わないと、傷害を負う可能性があります。 また、車体が損傷する可能性があります。
---	--

禁止行為はイラストに禁止マークが入っています。

	イラストに左記のマークを記載して禁止事項を示しています。
---	------------------------------

### その他の表示

 <b>アドバイス</b>	知っておくと便利なこと 知っておいていただきたいこと
--	-------------------------------


	グレード等により異なる装備については よつばマークがついています。
---	--------------------------------------

# 本文の見かた

**タイトル**  
階層により区別してあります。


**ヘッダー**  
ページの内容を案内しています。

**ツメタイトル**  
各章のタイトルを案内しています。

  
前ページ参照。

**スポーツシフト**

## ■マニュアルモード

セレクトレバーを  からマニュアルゲートに動かすと、マニュアルモードになります。

オートマチック車の運転

## 運転装置の使いかた

### エンジンの始動と停止のしかた

#### ■エンジンの始動（マニュアル車）

##### ●エンジンをかける前に

- ① 駐車ブレーキが引いてあるか確認します。
- ② チェンジレバーがニュートラル位置であることを確認します。

##### ●エンジンのかけかた

- ① 運転席に座り、ブレーキペダルを踏みます。
- ② クラッチペダルをいっぱい踏み込みます。
- ③ エンジンスイッチにキーを差し込みSTARTまでスイッチを回します。このとき、アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回します。（10秒以内）




#### アドバイス

##### <クラッチスタートシステム>

マニュアル車には誤操作防止のため、クラッチペダルをいっぱい踏み込まないとスターターが回らずエンジンがかからないようになっています。

#### ■エンジンの始動（オートマチック車）

##### ●エンジンをかける前に

- ① 駐車ブレーキが引いてあるか確認します。
- ② セレクトレバーが  であることを確認します。  でも始動できますが、安全のため  で始動してください。

##### ●エンジンのかけかた

- ① 運転席に座り、ブレーキペダルを踏みます。
- ② エンジンスイッチにキーを差し込みSTARTまでスイッチを回します。このとき、アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回します。（10秒以内）

#### 警告

車庫や屋内などの換気の悪いところで、エンジンをかけたままにしないでください。  
車内や屋内などに排気ガスが侵入し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

#### 注意

エンジンを始動するときは必ず運転席に座って行ってください。  
10秒以上スターターを回し続けしないでください。  
スターターが故障の原因になります。かからないときは一旦、スイッチをOFFに戻し、10秒間放置してからもう一度エンジンスイッチを回し、スターターを回します。  
エンジンがかかった後は水温計の指針が中央付近になるまでの間、アイドル回転が高めに保たれます。



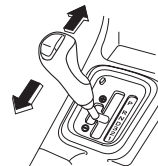
300103

点  
(図  
一  
点  
灯  
グ  
ウ



300061

し  
変  
回  
き



300104

3-43

3-30

**警告**  
前ページ参照。

**注意**  
前ページ参照。

**アドバイス**  
前ページ参照。

このページはサンプルページです。記載されている内容は実際のお車とは異なります。

# 検索について

本書では、色々な方法で目的のものを検索できるようにしてあります。

エアコンの使い方は？

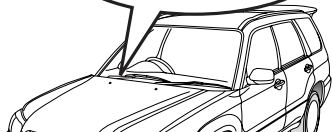
## 4 室内装備品の使いかた

・ヒーターとエアコン	4-2
・吹き出し口調整と吹角目的	4-4
・アロートヒーターの使い方	4-5
・リヤヒーターの使い方	4-7
・エアコンの使い方	4-8

## タイトルから探す

本書の目次  
ツメタイトル  
各章の目次

ワイパーを動かしたい



## 場所から探す

イラスト目次..... 0-1 ページ

小物入れ.....4-41	セレクトポジ
コンソールボックス.....4-38	セレクトレバ
シート	洗車のしかた
シート	センターアン
シート	ンターコン
シート	度計(スビ
シート	た
シート	タイトコーナ
シート	.....
シート	タイヤおび
シートの調整.....2-34	タイヤ空気圧
シートベルト.....2-45	タイヤ交換
シートベルト警告灯.....2-49、3-27	タイヤチェ
シートベルトの高さ調整.....2-49	タイヤローテ

シートの調整方法は？

## 名称から探す

さくいん..... さくいん-1 ページ

# MEMO

# 本書の目次

## イラスト目次

1

必読!安全で快適な  
運転のポイント

1-1

- お車をお使いいただく上で…1-2
- お出かけ前には…1-2
- お子さまを乗せるときの気くばり…1-7

2

運 転 す る  
前 に

2-1

- 各部の開閉…2-2
- シート…2-24

3

運 転 す る  
と 運 び

3-1

- スイッチの使いかた…3-2
- メーター、表示灯、警告灯の  
見かた…3-18

4

室 内 装 備 品 の 使  
い か た

4-1

- エアコン…4-2

5

寒 冷 地 での 使 い  
か た

5-1

- 冬の前の準備、点検…5-2

6

日 常 点 検 ・ 車 の  
手 入 れ

6-1

- 日常点検…6-2

7

万 一 の と  
き

7-1

- ジャッキ、工具、スペアタイヤ…7-2
- パンクしたタイヤの交換…7-5
- 発炎筒について…7-10

8

サ ー ビ ス  
デ ー タ

8-1

さくいん

- オートマチック車の特徴と  
運転上の注意…1-10
- 走行するときには…1-14
- 雪道走行するときには…1-20
- 駐・停車するときには…1-21
- SRSエアバッグシステムに  
ついて…1-24
- 燃料補給時の注意…1-25
- こんなことにも注意を…1-26
- 保証書・メンテナンスノートに  
ついて…1-30
- 環境にやさしい運転…1-31

1

- シートベルト…2-35
- SRSエアバッグシステム…2-49
- ハンドルとミラーの調整…2-64

2

- 運転装置の使いかた…3-30
- マニュアル車の運転…3-33
- オートマチック車の運転…3-35
- AWD車の運転…3-47
- サスペンション…3-50
- VDC…3-51
- ブレーキ…3-56
- ハンドル…3-59

3

- オーディオシステム…4-9
- 室内装備…4-30

4

- 走行する前に…5-6
- 走行するとき、駐車するとき、洗車するとき…5-8

5

- 車の手入れ…6-9

6

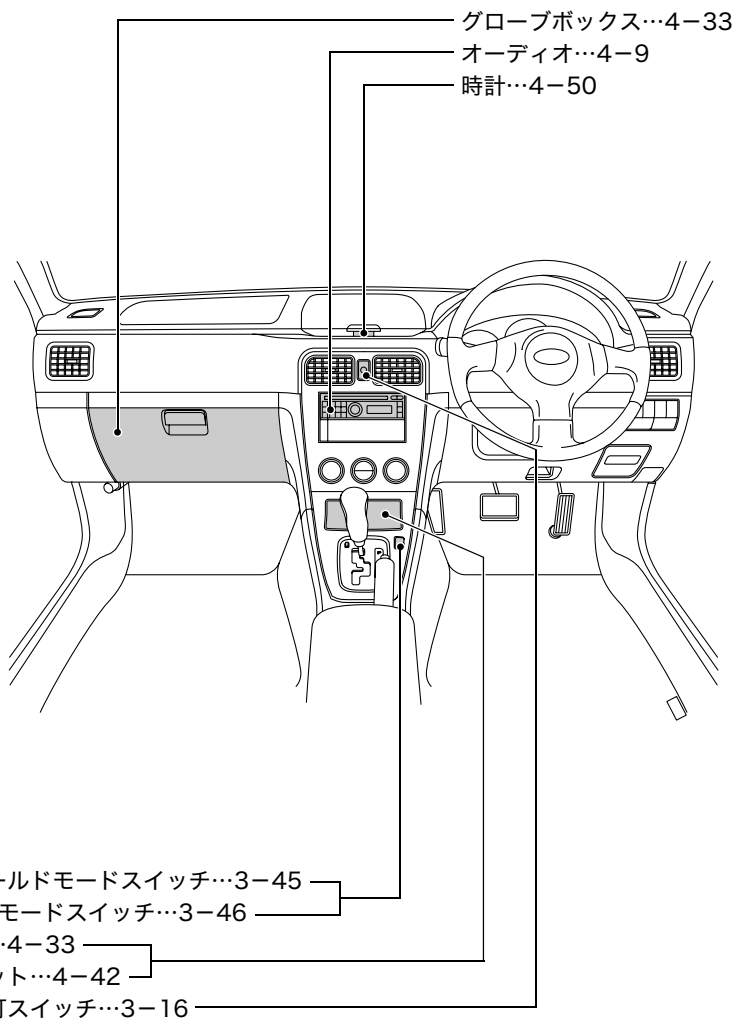
- 故障したとき…7-12
- けん引のとき…7-14
- オーバーヒートしたとき…7-18
- バッテリーが上がったとき…7-20
- 事故が起きたとき…7-22

7

8

# イラスト目次

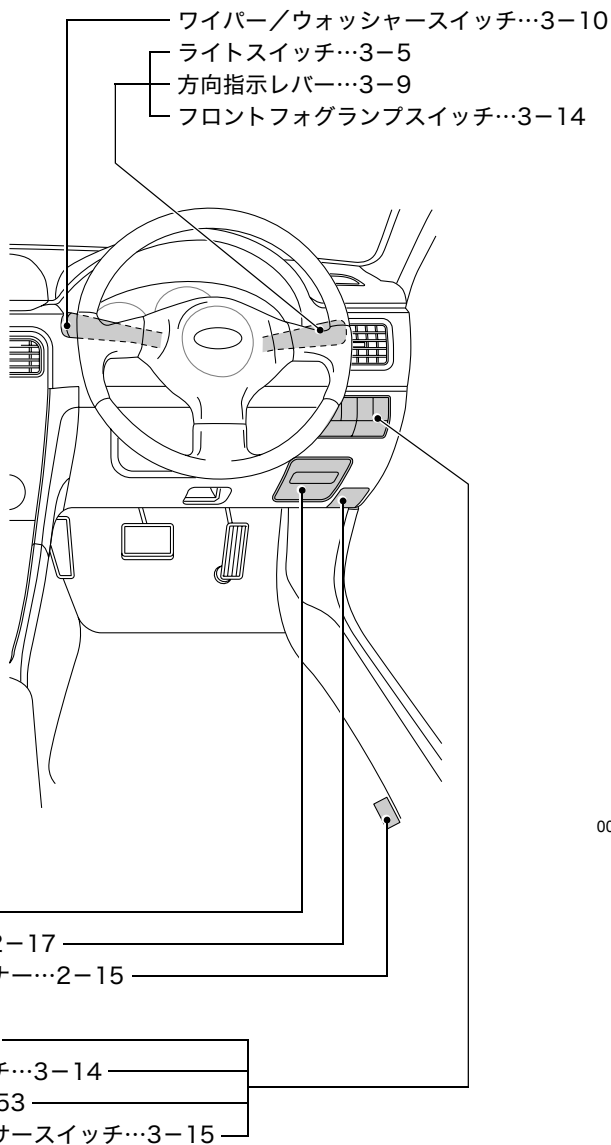
## インストルメントパネル周辺



000282

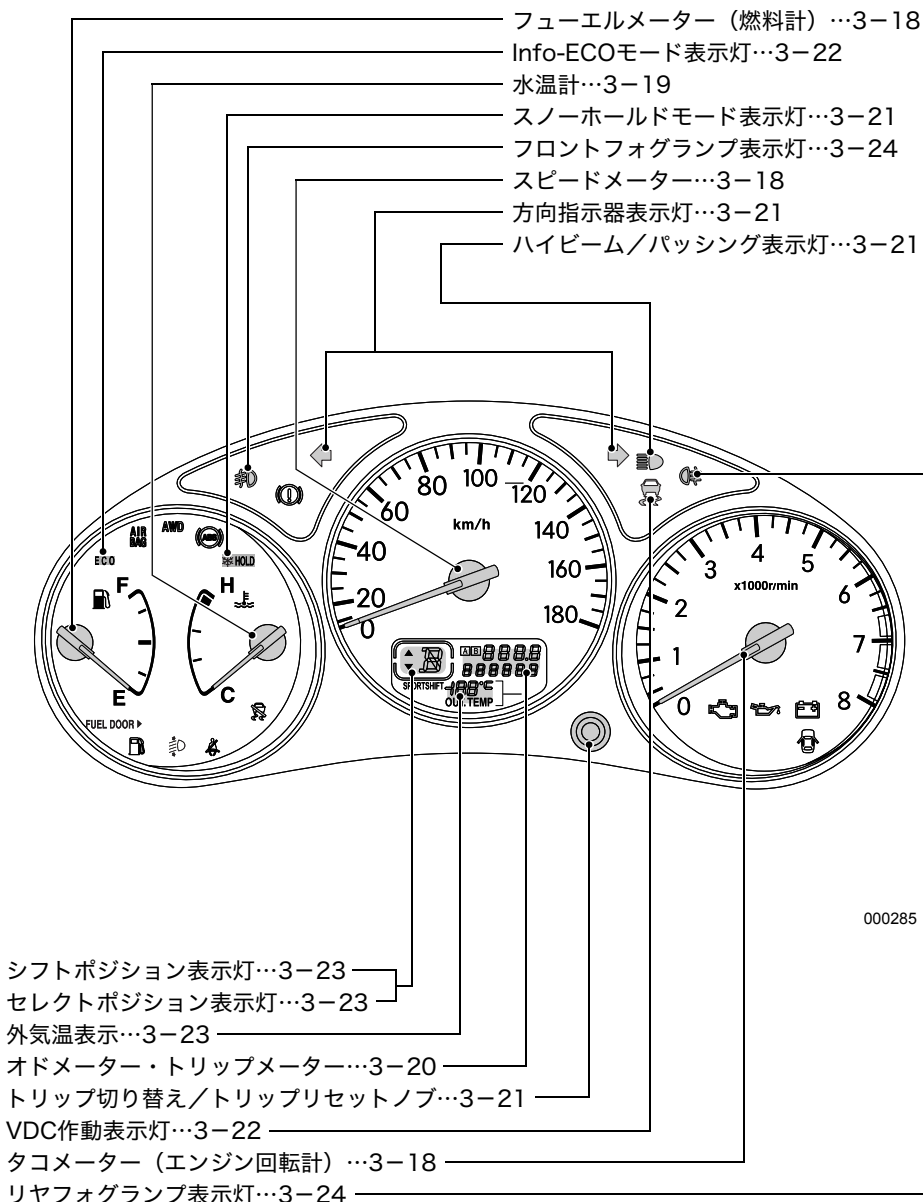


## ハンドル周辺



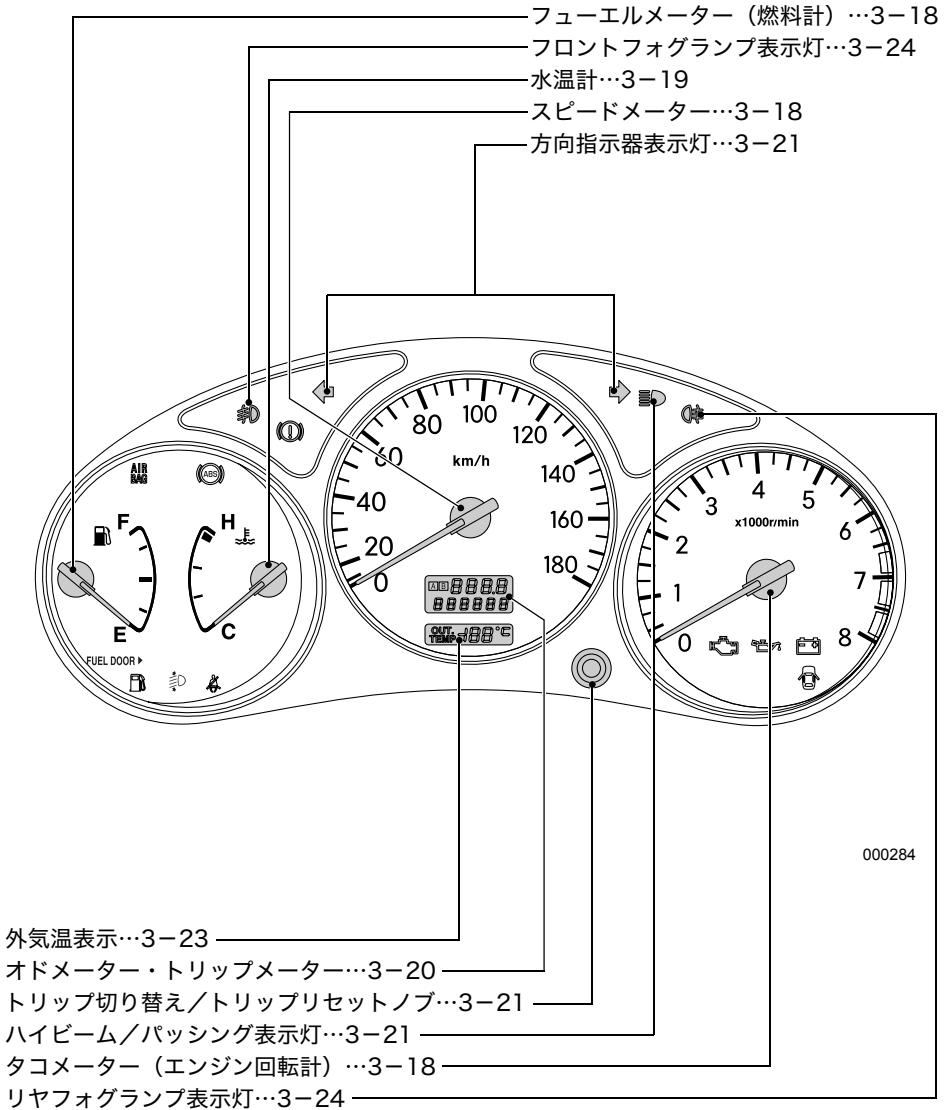
## メーター・表示灯

### <4速オートマチック車>



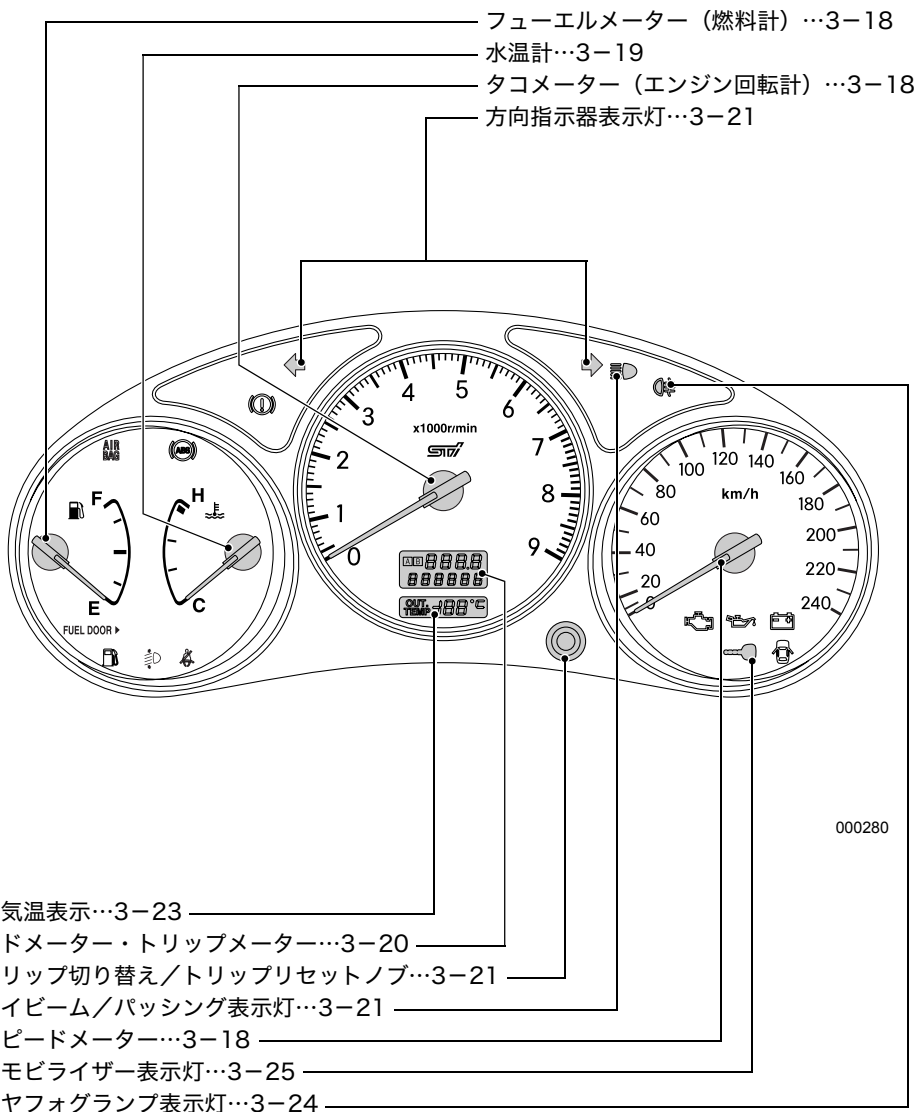
※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

## &lt; 5速マニュアル車 &gt;



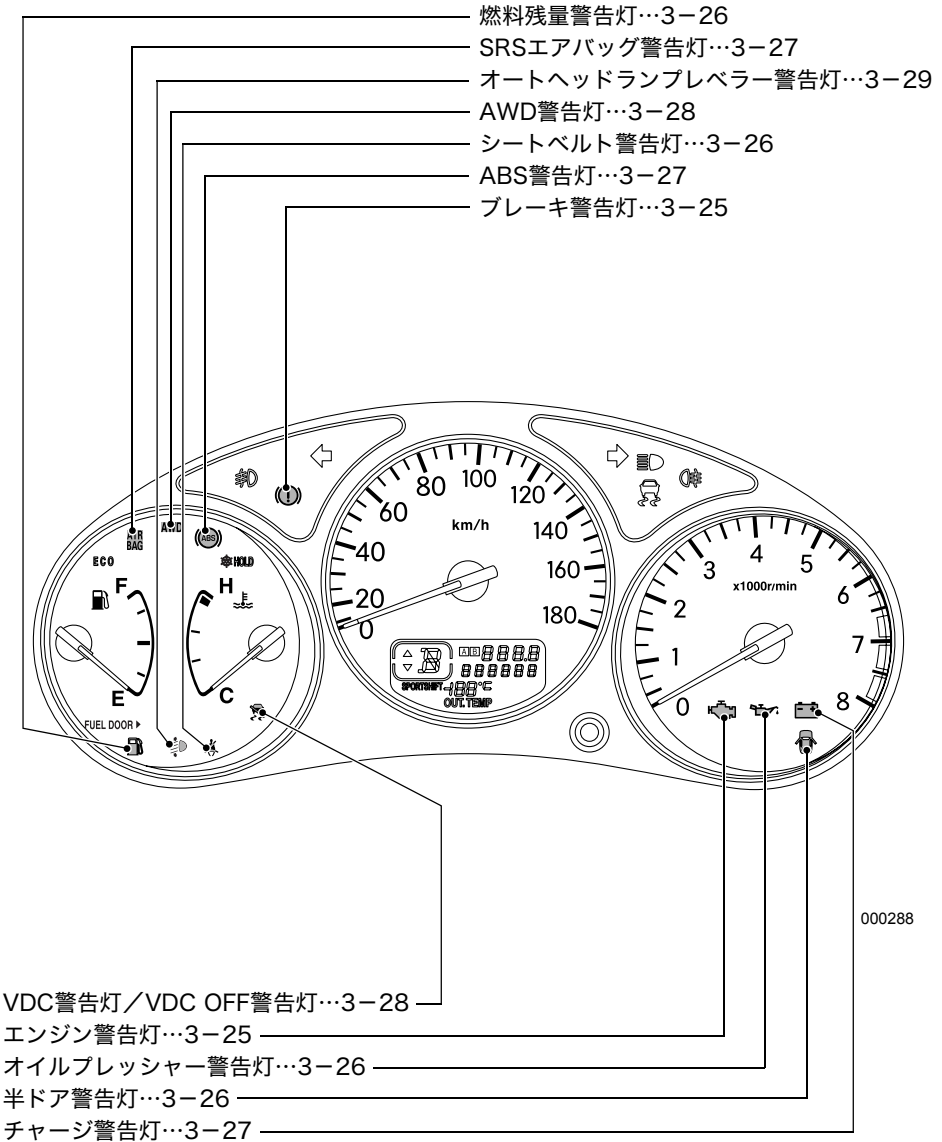
※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

< 6速マニュアル車 >



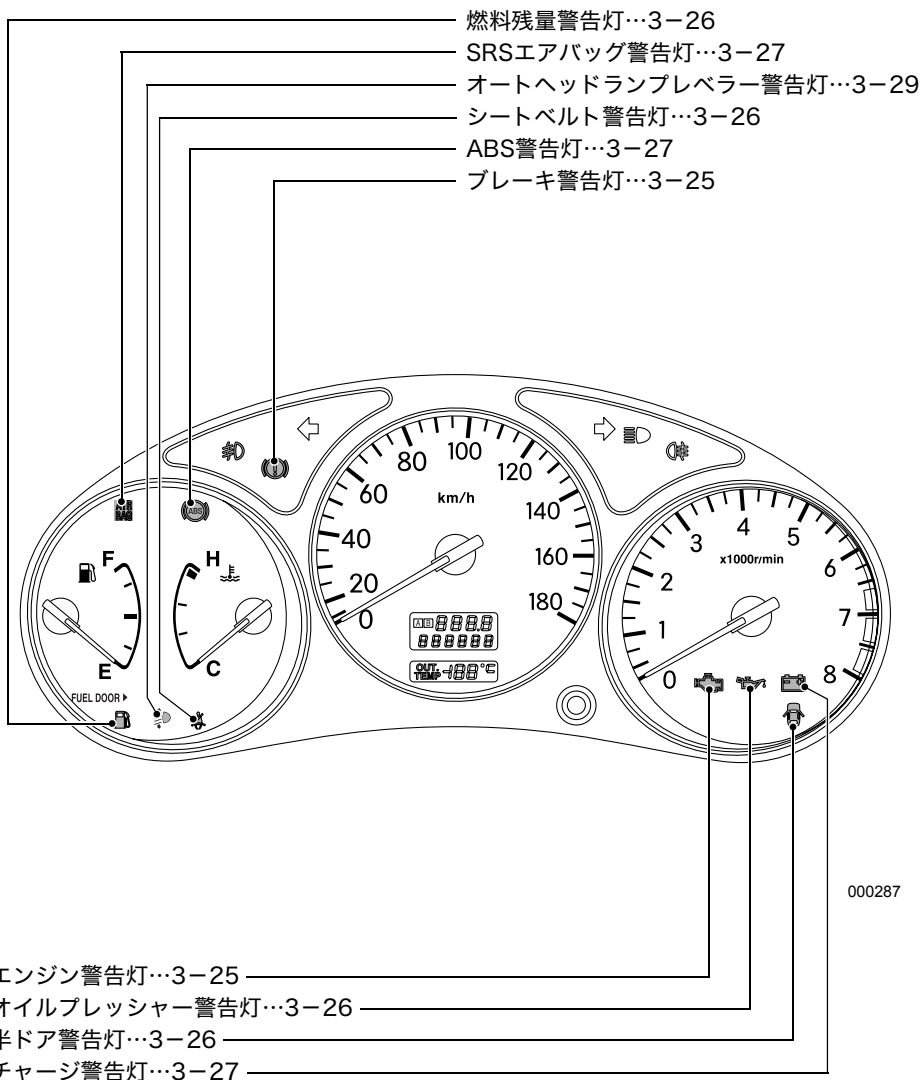
## 警告灯

## &lt; 4速オートマチック車 &gt;



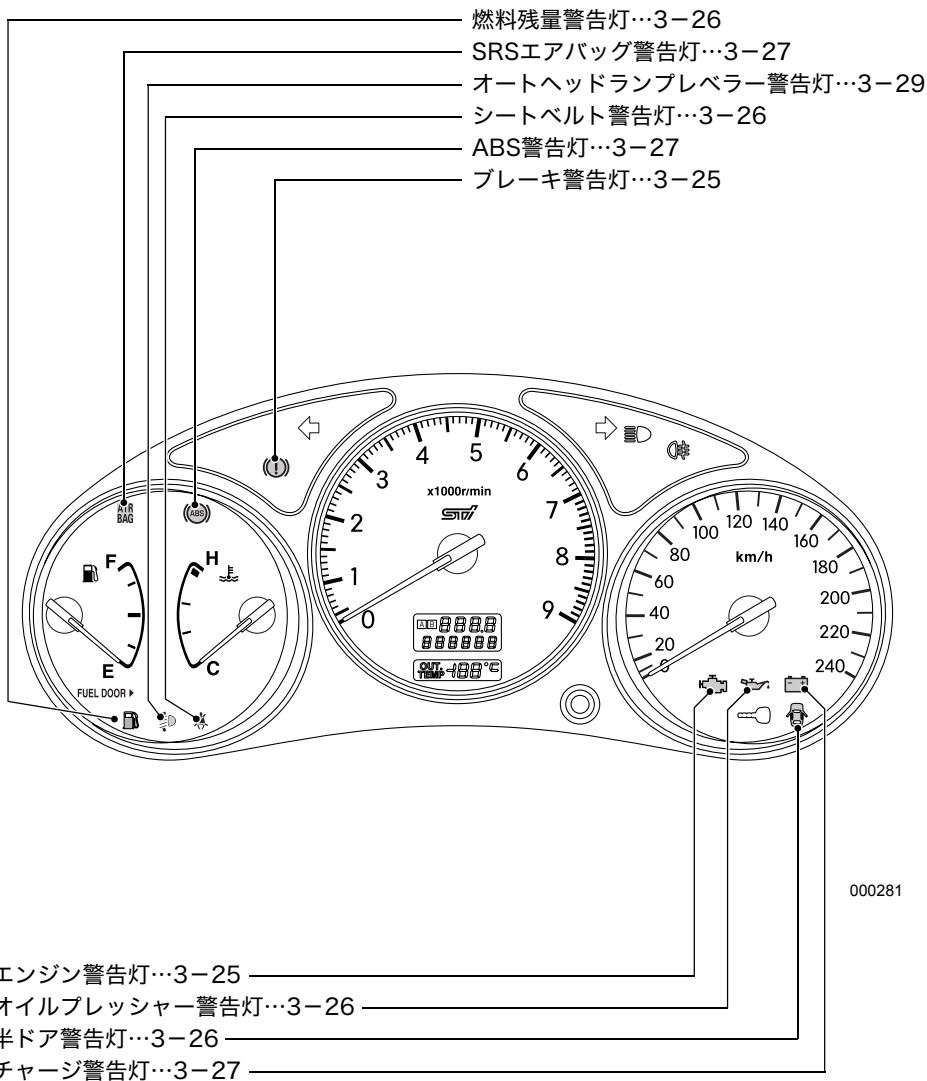
※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

< 5速マニュアル車 >

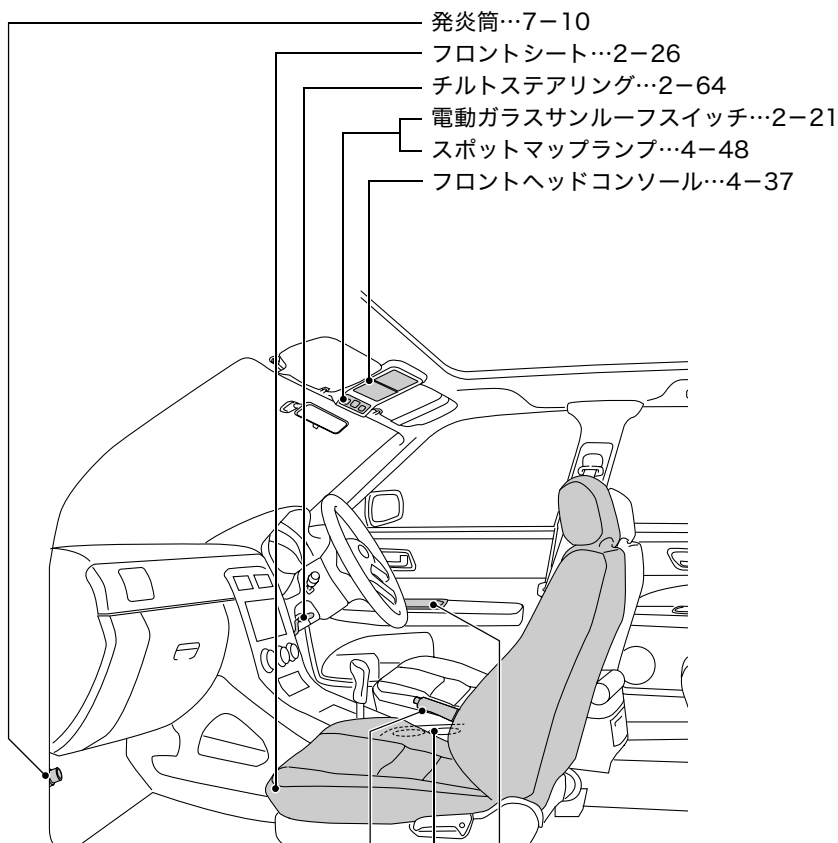


※グレードにより設定の有無およびメーターのデザインが一部異なります。

< 6速マニュアル車 >



## 室内・前側

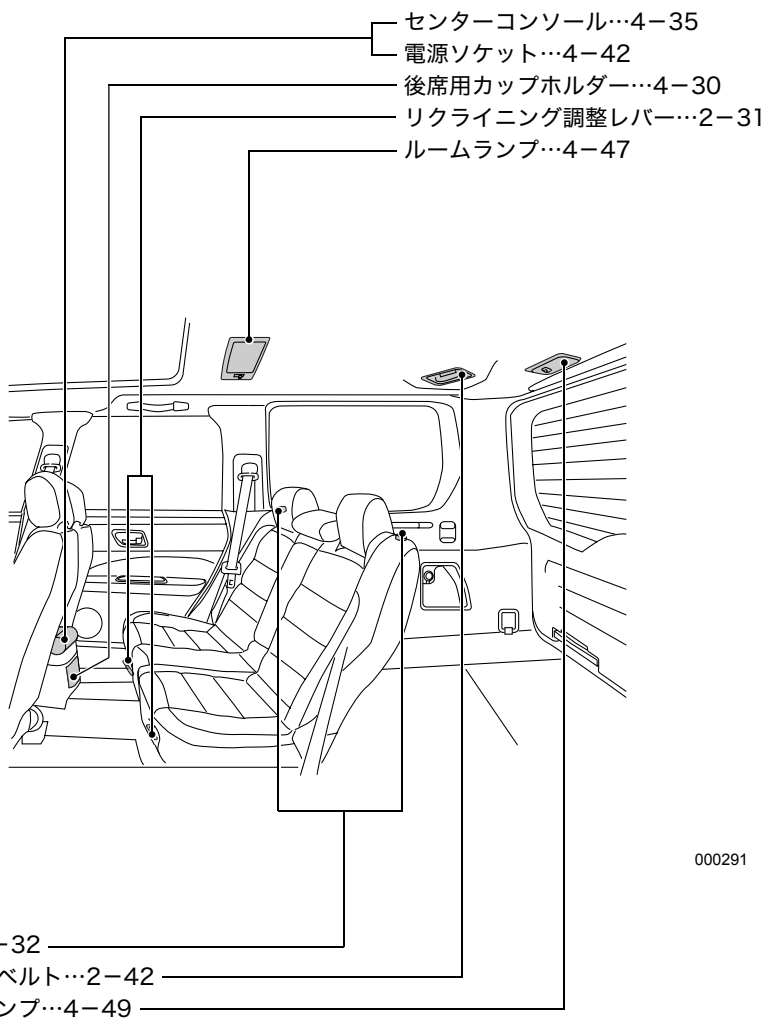


000290

- 駐車ブレーキレバー...3-32
- 前席用カップホルダー...4-30
- パワーウィンドウスイッチ...2-11
- 電動リモコンドアミラースイッチ...2-65

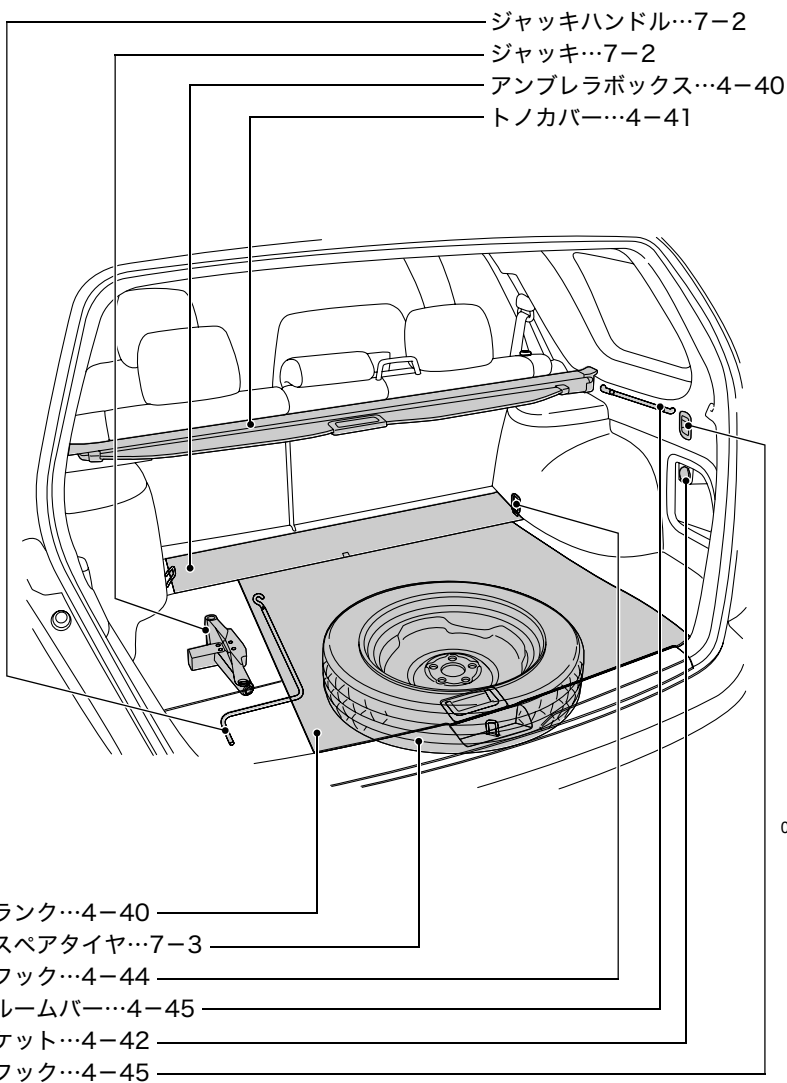


## 室内・後側

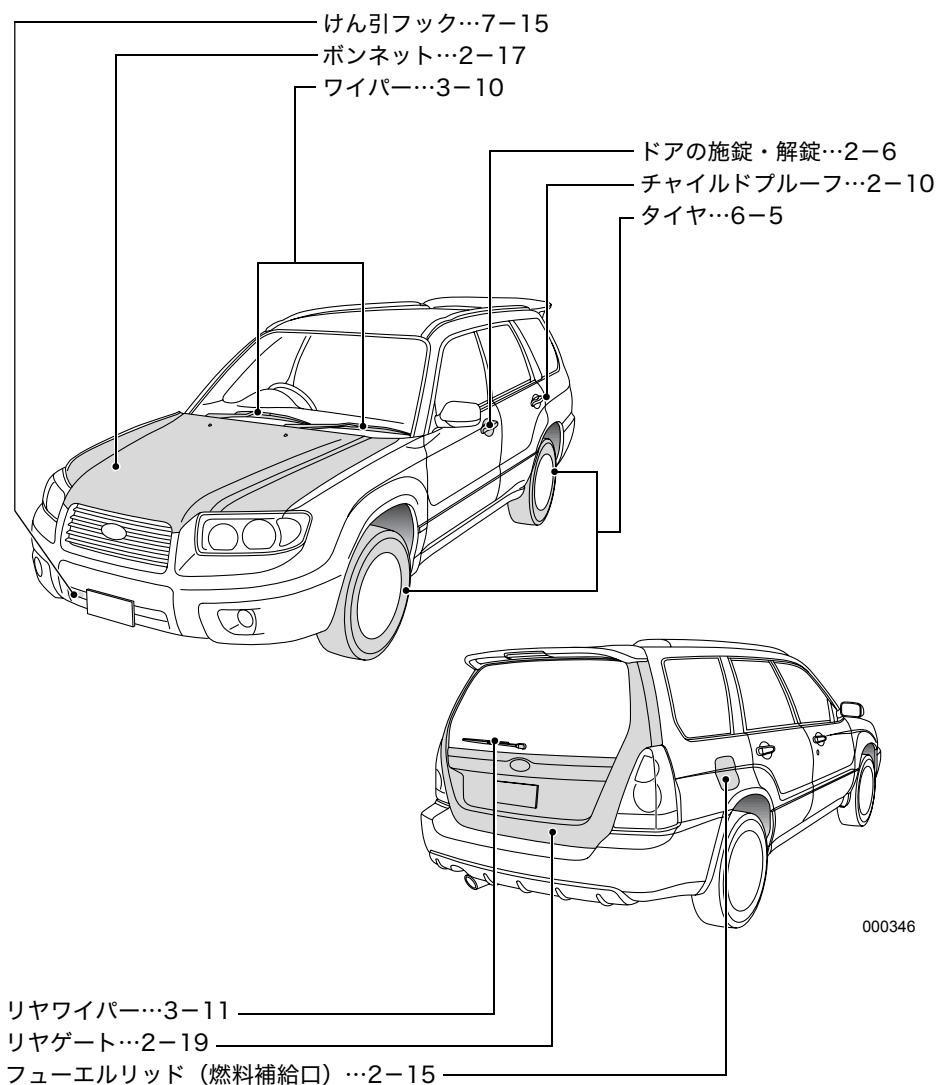


000291

## 荷室



# 外観



# MEMO

# 1

## 必読！安全で快適な 運転のポイント

お車をお使いいただく上で .....	1 - 2
お出かけ前には .....	1 - 2
お子さまを乗せるときの気くばり .....	1 - 7
オートマチック車の特徴と運転上の注意 .....	1 - 10
走行するときには .....	1 - 14
雪道走行するときには .....	1 - 20
駐・停車するときには .....	1 - 21
SRSエアバッグシステムについて .....	1 - 24
燃料補給時の注意 .....	1 - 25
こんなことにも注意を .....	1 - 26
保証書・メンテナンスノートについて .....	1 - 30
環境にやさしい運転 .....	1 - 31

## お車をお使いいただく上で

### ■キーナンバープレート、セキュリティ IDプレートの保管

- キーナンバーは合いかぎを作るときに、セキュリティ IDナンバーは作った合いかぎをイモビライザーへ登録するときに、必要となる物です。これらのナンバーが打刻してあるプレートは盗難防止のため、車の中には置かず大切に保管してください。
- イモビライザー機能付車は、キーを紛失したときに、盗難事故を防ぐため全てのキーのイモビライザー再登録が必要となります。このとき、セキュリティ IDプレートと全てのキーをスバル販売店にお持ちになってください。

☆2-2ページ参照

### ■カスタマイズ機能

お客さまのお好みにより、以下の機能の設定を変更することができます。スバル販売店にて変更することができますので、詳しくはスバル販売店にご相談ください。

機能の内容	設定	初期設定
アンサーバックブザーの作動	作動あり／作動なし	作動あり

☆2-7ページ参照

## お出かけ前には

### ■点検整備を実施して

安全で快適な運転をするために、日常点検整備および定期点検整備を実施することが法律で義務づけられています。

☆別冊のメンテナンスノート参照

### ■タイヤ空気圧を点検して

タイヤ空気圧の点検は法律で義務づけられています。タイヤ空気圧は応急用スペアタイヤも含め、空気圧ゲージを使用してドライブの前や、定期的（最低月1回程度）に点検・調整してください。タイヤ空気圧が不足したまま走行すると走行不安定やバースト（破裂）を招き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆6-6ページ参照

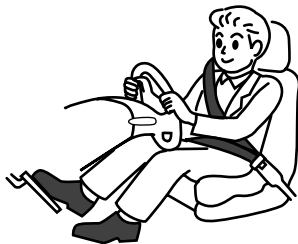
### ■バッテリーの液量はときどき点検して

バッテリーの液量が下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用、または充電すると、バッテリーが爆発するおそれがあります。バッテリーの液量はときどき点検し、少ないときは上限（UPPER LEVEL）まで補充してください。

## ■正しい運転姿勢に調整して

走行前にシート、ハンドル、ヘッドレストの位置を正しい運転姿勢がとれるように調整し、ドアミラー、ルームミラーなどを適切な位置に調整してください。

☆2-24、2-64ページ参照

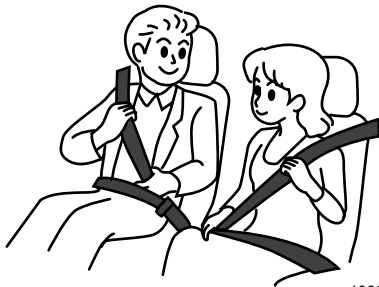


100028

## ■シートベルトは全員正しく着用して

- 走行する前に必ず全員がシートベルトを正しく着用してください。
- 後席でも必ずシートベルトを着用してください。
- SRSエアバッグは、シートベルトの補助装置でシートベルトに代わるものではありません。シートベルトは必ず着用してください。

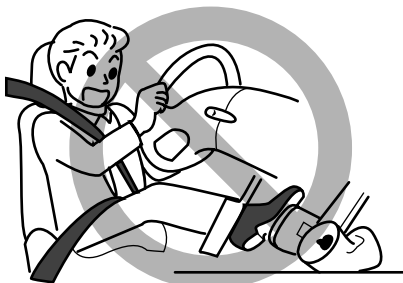
☆2-35ページ参照



100029

## ■運転席の足元はすっきりと

- 足元のまわりにあき缶などの物を置かないでください。ブレーキペダルの下に物が挟まってブレーキ操作ができなくなることがあります。
- フロアマットは車に合ったものを正しく敷いてください。また、ずれないように固定クリップなどで固定してください。アクセルペダルやブレーキペダルに引っかかり、思わぬ事故につながるおそれがあります。



100030

## ■サンダルでの運転はやめて

厚底靴やサンダル、下駄での運転は、アクセルペダルやブレーキペダルが思うように踏み込めなく、思わぬ事故につながるおそれがあります。

## ■室内に荷物を積むとき

- 荷物はできるだけ低くし、背当ての高さ以上に積まないでください。ブレーキを踏んだとき荷物が移動し、思わぬ事故につながる可能性があります。
- トノカバーの上に荷物を置かないでください。急ブレーキをかけたときなどに荷物が飛びだし、けがをするおそれがあり危険です。



100231

## ■ルーフに荷物を積むとき

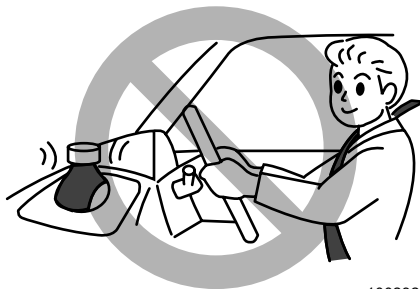
- ルーフに荷物を積むときは、別売の斯巴ル純正ルーフキャリアおよびアタッチメントを使用してください。斯巴ル純正品以外を使用しますと、車体に損傷を与えたり、サンルーフの開閉に支障をきたすことがあります。
- 走行中荷物が落下すると危険ですので、確実に荷物を固定してください。
- 固定方法や最大積載量については、ルーフキャリアおよびアタッチメントに添付の取扱説明書を必ずお読みください。



100003

## ■インストルメントパネルの上やスイッチの近くに物を置かないで

- インストルメントパネルの上に物を置いたまま走行しないでください。運転者の視界を妨げたり、発進時や走行中に動いて安全運転の妨げになり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- スイッチの近くに物を置かないでください。走行中に突然スイッチが押され、思わぬ機能が作動したり、スイッチの押されかたによっては、故障や加熱・火災の原因になります。
- SRSエアバッグが作動したときの衝撃で物が飛び、思わぬ事故につながるおそれがあります。



100232

☆2-52ページ参照



## ■危険物の持ち込みはやめて

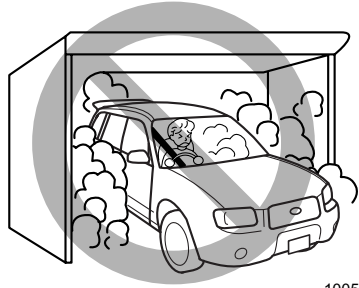
燃料の入った容器や可燃性ガス入りスプレー缶、ガスライターなどは炎天下で車内が高温になったとき火災の原因につながるおそれがあります。また、万一事故が起きたときにも危険です。



100233

## ■排気ガスの換気に気をつけて

車庫など換気の悪い場所でエンジンをかけたままにしないでください。換気が不充分になり、車内や車庫などに排気ガスが充満し、一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。



100542

## ■車内に排気ガスが侵入してきたと感じたら

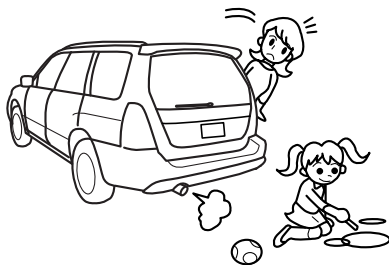
すみやかに窓を開け、換気してください。そのまま放置すると、排気ガスにより一酸化炭素中毒を起こすおそれがあります。



100699

## ■車の後ろに気をつけて

- お子さまや障害物など、車のまわりの安全を充分確認してください。
- 燃えやすい物があると、排気管や排気ガスの熱により火災になるおそれがあります。



100005

## ■こんなとき、スバル販売店で点検を受けて

次の場合は車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくとは走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあります。スバル販売店で点検を受けてください。

- いつもと違う音やにおいや振動がするとき
- ハンドル操作に異常を感じたとき
- ブレーキ液が不足しているとき
- 地面に油の漏れたあとが残っているとき
- 各警告灯が点灯・点滅したままのとき

## ■燃料には無鉛ガソリンを

- 無鉛ガソリンを使用してください。有鉛ガソリンを使うと触媒を劣化させます。
- 粗悪なガソリンや軽油、アルコール燃料等の不適切な燃料やガソリン添加剤は、エンジンの各部に悪影響を与えますので使用しないでください。
- ターボ車以外は無鉛レギュラーガソリンを使用してください。
- ターボ車は無鉛プレミアムガソリン（無鉛ハイオク）を使用してください。

無鉛プレミアムガソリンが入手できないときは無鉛レギュラーガソリンを使用することもできますが、エンジン性能を充分発揮できないこともあります。また、ノッキングが起りやすくなり、始動性も悪くなる場合があります。

指定ガソリンは、フューエルリッド（給油口フタ）の裏に記載されています。

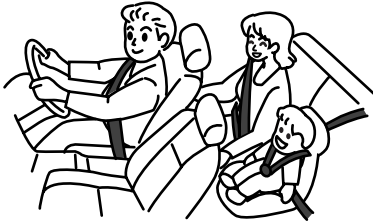
☆1-25ページ参照

# お子さまを乗せるときの気くばり

## ■ お子さまは後席に

助手席ではお子さまの動作が気になったり、お子さまが運転装置にさわって思わぬ事故につながるおそれがあります。お子さまは後席にすわらせて必ずシートベルトを着用させてください。シートベルトが首や顔に当たるなど適正な着用ができない場合はチャイルドシートを後席に取り付けて使用してください。後席がお子さまにとって最も安全な乗車位置です。

☆2-50ページ参照



100036



100234

必読！安全で快適な運転のポイント

## ■ チャイルドシートを使用して

- シートベルトが首や顔に当たるなど適正な着用ができないお子さまの場合、チャイルドシートを使用してください。
- 法律により6歳未満のお子さまを対象に、チャイルドシートの使用が義務づけられています。6歳未満のお子さまは必ずチャイルドシートを使用してください。

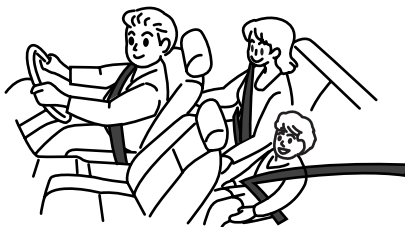
### 〈選択の目安〉

	ベビーシート	チャイルドシート	ジュニアシート
体重 (目安)	9 kg以下	9~18 kg	18~36 kg
身長 (目安)	70 cm未満	100 cm未満	145 cm未満
年齢 (目安)	0か月~9か月頃まで	4か月~4歳頃まで	4歳~12歳頃まで

- チャイルドシートは後席に取り付けてください。
- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。SRSエアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- チャイルドシートはお子さまを乗せていないときでも確実にシートに固定しておいてください。また、荷室に収納する場合でもロープなどを利用して固定してください。固定しないまま客室または荷室に放置すると、ブレーキをかけたときなどにチャイルドシートが動き乗員や物に当たるなどして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

## ■お子さまにも必ずシートベルトを

- お子さまにもシートベルトを適正な位置に調整し着用させてください。適正な位置でシートベルトを着用できないお子さまへはチャイルドシートを使用してください。
- 膝の上でお子さまを抱いていても、衝突したとき充分に支えることができず、重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトは一人用です。お子さまを抱いたままシートベルトの着用は絶対にしないでください。
- お子さまをSRSエアバッグの前やシートの上に立たせたりした状態では走行しないでください。

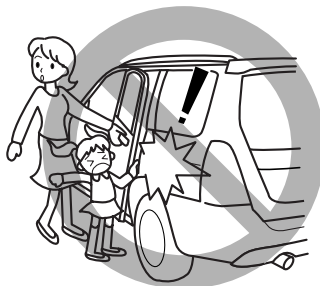


100037

## ■ドアの開閉に注意して

- 開閉、施錠は必ず大人が行ってください。開閉するときはお子さまの手や足などを挟まないように注意してください。また、安全のため、チャイルドプルーフをご利用ください。
- ドア開閉時、爪などを挟まないようにご注意ください。

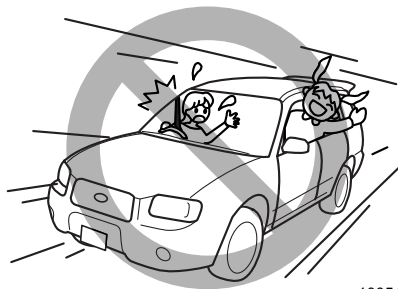
☆2-5、2-10ページ参照



100543

## ■窓やサンルーフから顔や手を出させないで

走行中、車外のものなどに当たったり、急ブレーキ時に思わぬけがをするおそれがあり危険です。



100544

## ■パワーウィンドゥに気をつけて

- パワーウィンドゥが閉まる時には大きな力が働きます。挟まれると危険ですので、閉める前にお子さまが窓から顔や手を出していないことを確認してください。
- 挟まれると危険ですので小さなお子さまには開閉操作をさせないでください。
- お子さまを乗せる時にはパワーウィンドゥのロックスイッチをロックにしておいてください。  
お子さまがウィンドゥスイッチをいたずらして手や首を挟むことを防止します。

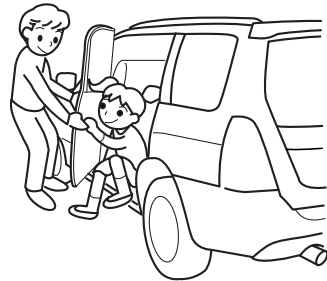
☆2-11ページ参照



100235

## ■車から離れるときは一緒に

- とくに乳児など小さなお子さまや介護を必要とする方は車内に残さないでください。炎天下の車内は高温となり熱射病などにつながるおそれがあります。  
エアコンを作動させていても途中で止まることもあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 駐車ブレーキ等、運転装置のいたずらにより思わぬ事故につながるおそれがあります。



100008

## オートマチック車の特徴と運転上の注意

☆3-35 ページの「オートマチック車の運転」も併せてお読みください。


### ■クリーブ現象があります

- エンジンがかかっているとき、アクセルペダルを踏まなくても、ゆっくりと車が動き出す現象をクリーブ現象といいます。
- 停車中は車が動かないようにブレーキペダルを踏み、必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。
- エンジン始動直後やエアコン作動時、ハンドル転舵時などは、自動的にエンジン回転数が上がるため、(アイドルアップ)、クリーブ現象が強くなることがありますのでブレーキペダルを確実に踏んでください。必要に応じて駐車ブレーキをかけてください。



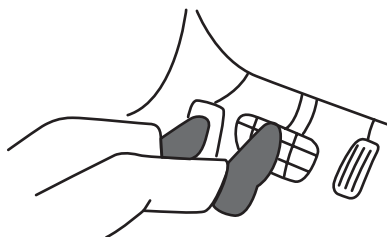
100009

### ■強い加速を必要とするときキックダウンができます

- 走行中にアクセルペダルを深く踏み込むと自動的に低速ギヤに切り替わります。これを「キックダウン」といい、強い加速力を必要とするときに使用します。
- スポーツシフト装備車でマニュアルモード選択時は、キックダウンは行われません。キックダウンを行う必要のあるときは、に戻してください。

### ■ブレーキペダルは右足で

- エンジンをはかける前にペダルの位置を確認してください。ペダルの踏み間違いは思わぬ事故につながります。
- アクセルペダルとブレーキペダルは右足で操作してください。慣れない左足でのブレーキ操作は緊急時の反応がおくれることがあり危険です。



100077

## ■セレクトレバーの操作は確実に

- 発進時、セレクトレバーの操作を行うときは、アクセルペダルを踏まずにブレーキペダルを踏みながら操作をしてください。
- エンジン始動後、セレクトレバーはブレーキペダルを踏まない（スポーツシフト装備車はセレクトレバーのボタンを押さない）**P**から動かないようになっております。また、アクセルペダルを踏んだまま操作すると急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 誤発進防止のため後退した後は、セレクトレバーをすみやかに**R**から**P**または**N**にする習慣をつけてください。

## ■セレクトレバー位置は目で確認

エンジンをかけるときは**P**、前進するときは**D**（後退は**R**）にあることを目で確認してください。



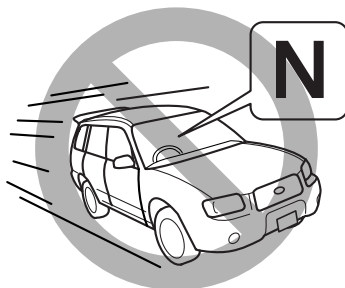
100078

## ■発進時、アクセルペダルの踏み込みはゆっくりと

アクセルペダルを急激に踏み込むと急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。発進時はゆっくりとアクセルペダルを踏み込んでください。

## ■走行中はセレクトレバーを**N**にしないで

エンジンブレーキがまったく効かなくなり思わぬ事故につながるおそれがあります。



100546

## ■走行中（前進時）は、**R**にしないで

トランスミッションの損傷の原因になります。

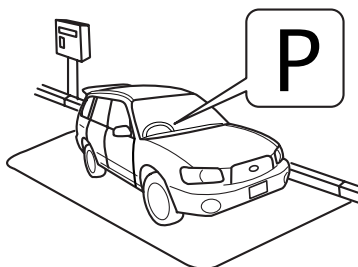
## ■車が完全に止まらないうちに[P]に入れないで

トランスミッションの損傷の原因になります。

## ■駐車するときは[P]にして、駐車ブレーキを確実に

車が動きだしたり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏むと急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。セレクトレバーを[P]にし、駐車ブレーキも必ずかけてください。

☆1-21ページ参照



100011

## ■停車中は空吹かしをしないで

思わぬ事故につながるおそれがありますので、空吹かしをしないでください。



100012

## ■車から離れるときはエンジンを止めて

- クリーブ現象で車がひとりでに動いたり、乗り込むとき誤って急発進し思わぬ事故につながるおそれがあります。
- セレクトレバーを[P]にして駐車ブレーキを確実にかけエンジンを切ってください。



100009



## ■ Rに入れるとブザーが鳴ります

Rに入れるとブザーが鳴り、Rであることを運転者に知らせます。車外の人に音は聞こえませんのでご注意ください。

## ■ シフトロックシステムがついています

セレクトレバーの誤操作を防ぐシステムです。

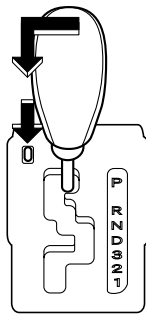
- Pからのレバー操作は、エンジンスイッチを ON にしブレーキペダルを踏まないと操作できません。
- ゲート式セレクトレバー装備車の場合、レバーを P から他の位置に操作するとき、先にセレクトレバーを横に押してからブレーキペダルを踏むとレバー操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏み、レバー操作をしてください。
- P以外ではエンジンスイッチからキーは抜けません。  
(P以外ではキーをAccからLOCKに回せません)
- NでエンジンスイッチをOFFにした場合、しばらくするとレバーを P に操作することができなくなる場合がありますので直ちに P に操作してください。  
もし、セレクトレバーが N から P に操作できないときは、エンジンスイッチをONにしてから P へ操作してください。あるいは、シフトロック解除ボタンを押しながらレバーを P に操作してください。

## ■ Pからのレバー操作ができないとき

エンジンスイッチがONでブレーキペダルを踏んだ状態でもレバー操作ができないときは、次の手順でシフトロックを解除してください。

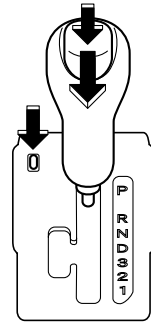
- ① 駐車ブレーキレバーを引きます。
- ② ブレーキペダルを踏みます。
- ③ シフトロック解除ボタンを押しながらセレクトレバーを操作します。  
ただし、スポーツシフト装備車はセレクトレバーのボタンを押しながら操作します。

ゲート式



100079

スポーツシフト付



100549

この場合は、シフトロックシステムの故障が考えられますので、直ちにスバル販売店で点検を受けてください。

## 走行するときには

### ■タイヤ交換のときは

4輪のうち1輪でも異なるタイヤを装着していると、車両の駆動系の損傷や最悪の場合、火災につながるおそれがあり危険です。また、操縦性・ブレーキ性能を危険なものにし、事故につながる可能性がありますので、下記事項をお守りください。

- 4輪とも必ず、指定サイズ、同一サイズ、同一メーカー、同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 著しく摩耗したタイヤは使用しないでください。
- 摩耗差の著しいタイヤを混ぜて使用しないでください。
- タイヤの空気圧を指定空気圧に保ってください。
- 応急用スペアタイヤは、指定されたサイズを、指定された位置に装着してください。  
なお、冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着するときも同様です。

☆6-5、7-3ページ参照

### ■走行中異常があったら

- 警告灯が点灯したら、直ちに安全な場所に停車し、スバル販売店に連絡してください。そのまま走行すると思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆3-25ページ参照

- ボンネット内部は高温になっています。ボンネットを開けてチェックするときは、高温部に触れないでください。やけどをすることがあります。エンジンの回転部分には絶対に触れないでください。重大な傷害を受けるおそれがあります。
- オーバーヒートしてエンジンルームから水蒸気が吹き出しているときは絶対にボンネットを開けないでください。

☆7-18ページ参照

- 走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）してもあわてずにハンドルを確実に握り、急ブレーキを踏まずに徐々にスピードを落とし、安全な場所に停車してください。
- 床下に衝撃を受けたときは安全な場所に直ちに車を止め、ブレーキ液や燃料の漏れ、オイル漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。やけどの危険がありますので排気管には触れないように点検してください。損傷や異常がある場合は、スバル販売店に連絡してください。



100013

## ■ペダルに足をのせたまま運転しないで

ブレーキペダルやクラッチペダルに足をのせたまま運転しないでください。ブレーキやクラッチの部品が早く摩耗したり、ブレーキが過熱して効きが悪くなるおそれがあります。



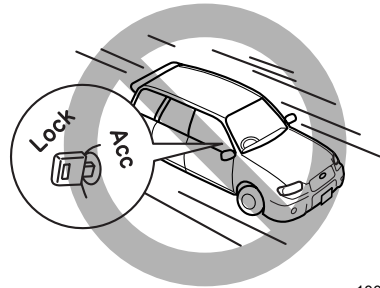
100236

## ■走行中はエンジンスイッチを切らないで

- 走行中エンジンを止めるとブレーキブースター（制動力倍力装置）が効かなくなり、ペダルを踏むときに通常より強い力が必要となります。また、パワーステアリング機能が働かずハンドル操作が重くなったりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆3-58ページ参照

- 走行中エンジンスイッチを LOCK にしないでください。キーが抜けるとハンドルがロックされ、操作ができなくなり、重大な事故につながるおそれがあります。
- 走行中エンジンを止めると触媒が過熱して焼損することがあります。



100551

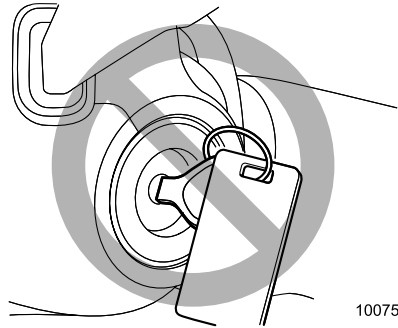
## ■キーホルダーや他のキーに気をつけて

- キーグリップにキーホルダーや他のキーがかさなると、膝や手などが当たり、キーを回してしまうおそれがありますので注意してください。大型のキーホルダーはキーに付けしないでください。テコの原理で小さな力でも回ってしまうおそれがあります。
- キーホルダーや他のキーを多数付けしないでください。また、重いものをキーに付けしないでください。車両の動きにより遠心力が働き、キーを回してしまうおそれがあります。

次ページへ ⇒

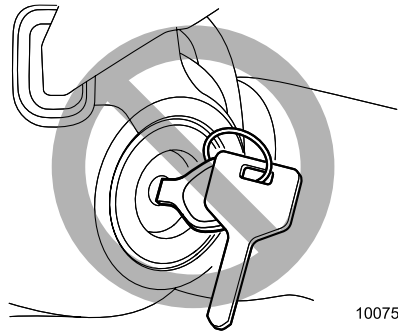
⇒前ページより

キーグリップにキーホルダーやアクセサリがかさなっているとき



100758

キーグリップに他のキーがかさなっているとき



100759

## ■ABSを過信しないで

ABSは必ずしも制動距離を短くするものではありません。

下記の道路などではABSが作動した場合、ABSが付いてない車よりも制動距離が長くなる場合があります。

ABSが付いてない車と同様、十分な車間距離をとって安全運転を心がけてください。

- マンホール、工事現場の鉄板などの滑りやすい路面
- 道路のつなぎ目などの段差
- 凹凸路、石畳などの悪路
- 下り坂での旋回
- 路肩に草や砂利が多い道路
- 砂利道
- 雪道（新雪路、圧雪路、アイスバーンなど）

☆3-56ページ参照

## ■洗車後や水たまりを走行したあとはブレーキの効き確認を

水たまり走行後や洗車後、ブレーキの効きが悪くなることがあります。ブレーキペダルを軽く踏んで効きを確認してください。ブレーキの効が悪い場合は前後の車に充分注意して低速で走行しながら効きが回復するまで、ブレーキペダルを数回踏んでください。

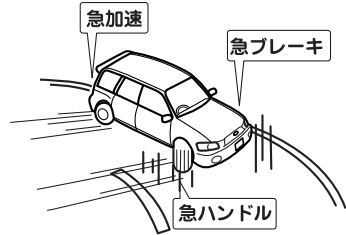


100015

## ■ぬれた路面や滑りやすい路面での走行は慎重に

とくに雨の降り始めは注意してください。また、急ブレーキ、急ハンドルなどやエンジン回転が急上昇するような急なシフトダウンは避けてください。タイヤがスリップして思わぬ事故につながるおそれがあります。

☆1-20ページ参照



100016

## ■雨天の走行は速度を落として

- 路面がぬれると滑りやすくなります。通常より注意して安全運転を心がけてください。
- わだちなどにできた水たまりに高速で進入すると、タイヤが水に乗った状態（ハイドロプレーニング現象）になり、ハンドルやブレーキが効かなくなり危険です。速度を落として走行してください。とくに摩耗したタイヤは、ハイドロプレーニング現象が起こりやすいので注意してください。
- 冠水路など深い水たまりは走行しないでください。エンジン損傷や車両事故につながるおそれがあります。

## ■下り坂ではエンジブレーキの併用を

- ブレーキペダルを踏み続けるとブレーキが過熱してブレーキが効かなくなるおそれがあります。シフトダウンしてエンジブレーキを併用してください。
- シフトダウンせずにエンジンの低回転領域でブレーキを使用し続けると、ブレーキブースター（制動力倍力装置）のアシスト力（補助力）が弱くなり、ブレーキペダルを踏むとき通常より強い力が必要となる場合があります。

☆3-58ページ参照

### 〈エンジブレーキとは〉

走行中にアクセルペダルを戻したときに起こるブレーキ効果のことをいいます。低速ギヤに入れるほどよく効きますが、エンジン回転数がタコメーター（エンジン回転計）のレッドゾーンに入らないようにしてください。

### 〈シフトダウンとは〉

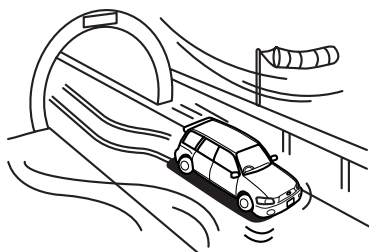
- マニュアル車では5→4、4→3、3→2、2→1のように低速ギヤへ変速すること。
- オートマチック車ではセレクトレバーを④→③、③→②、②→①にすると低速ギヤに切り替わります。  
また、スポーツシフト装備車のマニュアルモードではステアリング部のスイッチまたはセレクトレバーを⊖側（ダウン側）にすることで低速ギヤに切り替わります。
- シフトダウンによる急激なエンジブレーキは、進路状況や車間距離に注意して行ってください。

☆3-43ページ参照

## ■横風に注意して

ハンドルを確実に握り、安全な速度で運転しましょう。

走行速度が速過ぎると、ハンドルを確実に握っていても不意の突風に車の進路が乱され、事故の原因になるおそれがあります。



100017

## ■高速道路に入る前には

- 燃料は充分補給してください。高速道路上での燃料切れは危険です。
- タイヤ空気圧を確認してください。空気圧不足の状態でも高速走行するとタイヤがバースト（破裂）するおそれがあり大変危険です。

☆8-6ページ参照

- 万一のために停止表示板（停止表示灯）を車に備えておいてください。  
停止表示板（停止表示灯）の設置は法律で義務づけられています。（別売り）

## ■燃えやすいものの上は走らないで

排気管や排気ガスの熱により着火するおそれがあります。



100018

## ■こんなことにも注意してください

- 急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは避けてください。
- 車間距離は充分とってください。
- スタック（立ち往生）したときなどはタイヤを高速で回転させないでください。タイヤがバースト（破裂）したり、異常過熱により思わぬ事故につながるおそれがあります。

## ■適切なエンジン回転数で運転を

- 新車の慣らし運転中（1,000 kmまで）……4,000 rpm以下
- 慣らし運転後……タコメーター（エンジン回転計）のレッドゾーン未満

## ■ブレーキパッドの摩耗警報

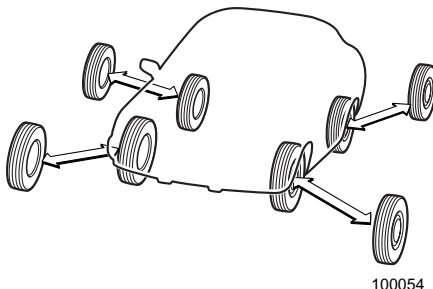
パッドが摩耗して交換時期になるとブレーキペダルを踏むたびに金属的な摩擦音（キーキー音）がします。

音が発生したときはすみやかにスバル販売店で交換してください。

## 雪道走行するときには

### ■4輪とも冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）で

- 雪道走行が予想される場合は冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を用意してください。一般タイヤでは、雪道、凍結路でスリップし危険です。
- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）は、4輪とも必ず指定空気圧および指定サイズで、同一サイズ・同一メーカー・同一銘柄および同一トレッドパターン（溝模様）のタイヤを装着してください。
- 摩耗差の著しいタイヤは使用しないでください。



☆1-14ページ参照

### ■控えめな運転に心がけて

- 冬用タイヤ（スタッドレスタイヤ）を装着していても、急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルは、避けてください。タイヤのグリップ力が失われ、車の進路をコントロールできなくなる場合があります。
- 発進時は、2速ギヤの使用をお奨めします。
- オートマチック車：スノーホールドモードスイッチをONにしてください。

☆3-45ページ参照

- マニュアル車：チェンジレバーを“2”にします。

☆3-33ページ参照

### ■タイヤチェーンは非常のときのみ前輪に

- タイヤチェーンは非常のときのみ前輪に取り付けてください。

☆5-2ページ参照

- タイヤチェーンを取り付けると、前後輪の接地力バランスが変わるため、後輪が滑りやすくなります。後輪が滑りだすと、ハンドルで車の進路をコントロールすることが難しくなります。急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなどを避けて路面の状況に合った安全な速度（30 km/h以下）で慎重に運転してください。





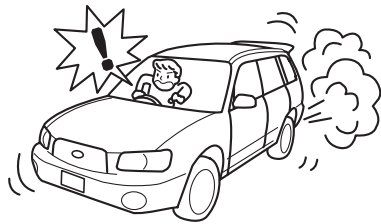
## 駐・停車するときには

### ■燃えやすいものの近くに車を停めないで

- 枯れ草、紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには、車を停めないでください。排気管や排気ガスの熱により火災につながるおそれがあります。
- 車の後ろに木材、ベニヤ板など燃えやすいものがあるときは、30 cm以上離して停めてください。すき間が少ないと排気ガスにより変色や変形を起こしたり、火災につながるおそれがあります。

### ■停車中は空吹きをししないで

排気管が過熱し、車両火災につながるおそれがあり危険です。



100012

必読！安全で快適な運転のポイント

### ■坂道に駐車するときは

無人で車が動きだすなど思わぬ事故につながるおそれがあります。安全のため次の処置をしてください。

- ① 駐車ブレーキを充分にかけ、車が動きださないことを確認します。

☆5-9ページ参照

- ② マニュアル車：チェンジレバーを以下の位置に入れます。

下り坂；“R”

登り坂；“1”

オートマチック車：セレクトレバーを **P** に入れます。

- ③ 輪止め（石やタイヤストッパー）をします。

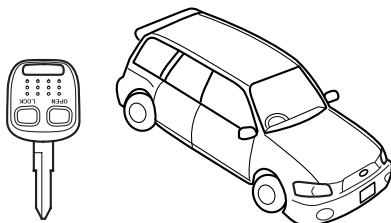
なお、急な坂での駐車は避けてください。

### ■車の移動はエンジンをかけて

必ずエンジンをかけて移動してください。エンジンをかけないで坂道を利用した移動は、ブレーキの効きが悪かったり、ハンドル操作が重くなり思わぬ事故につながるおそれがあります。

## ■車から離れるときは必ず駐車ブレーキをかけ、エンジンを切り、必ず施錠を

- 無人で車が動きだしたり、車両盗難や貴重品盗難など思わぬ事故につながるおそれがあります。
- お子さまや介護が必要な方を車内に残したままにしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

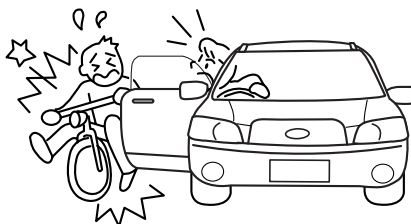


ロック

100952

## ■いきなりドアを開けないで

ドアを開けるときは、周囲の安全を確認してください。後ろから車、オートバイ、自転車などがきている場合があり思わぬ事故につながるおそれがあります。



100022

## ■仮眠するときは必ずエンジンを止めて

仮眠中に無意識にアクセルペダルを踏み続けたり、チェンジレバー、セレクトレバーを動かしたりして思わぬ事故やオーバーヒート、火災につながるおそれがあり危険です。また、風通しのよくない場所では一酸化炭素中毒になるおそれがあります。



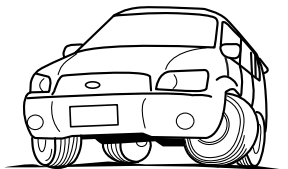
100059

## ■雪が積もった場所や降雪時に駐車するときは、エンジンをかけたままにしないでください

エンジンをかけた状態で車のまわりに雪が積もると、排気ガスが車内に侵入して一酸化炭素中毒になるおそれがあり危険です。

## ■ハンドルをいっぱい回した状態を長く続けないで

車庫入れなどで、エンジンをかけたままハンドルをいっぱい回した状態を長く続けないでください。(5秒未満) オイルの潤滑不良を起こし、パワーステアリング装置を損傷することがあります。



100023

## ■エンジンルーム内には冷却ファンがついています

エンジンの温度が高い状態では、エンジンが停止していてもエンジンスイッチをONにすると、エンジンルーム内の冷却ファンが作動することがありますのでボンネットを開ける場合は、ご注意ください。

回転している冷却ファンに触れるとけがをするおそれがあります。

## SRSエアバッグシステムについて

### ■SRSエアバッグシステムとは

- 運転席、助手席SRSエアバッグシステムは、エンジンスイッチがONのとき車両が前方から強い衝撃を受けた場合のみ作動します。この装置は運転者および助手席同乗者の頭部への衝撃をやわらげるシートベルトの補助装置で、横方向や後部からの衝突、あるいは横転などの衝撃では作動しないよう設定されています。
- SRS サイドエアバッグは、エンジンスイッチがONのとき車両が側面から強い衝撃を受けた場合のみ作動し、運転者および助手席同乗者への側面からの主に胸部、頭部にかかる衝撃をやわらげる装置です。

#### <運転席SRSエアバッグ>



100061

#### <助手席SRSエアバッグ>



100062

#### <SRSサイドエアバッグ> ☘



100560

## ■シートベルトは必ず着用して

- SRS エアバッグシステムはシートベルトを補助する装置でシートベルトに代わるものではありません。SRS エアバッグシステムだけでは身体の飛びだしなどを防止できないばかりか、エアバッグ本体からの衝撃を直接受けてしまいます。
- シートベルトを正しく着用し、正しい運転（乗車）姿勢をとらないと、衝突などのとき、SRS エアバッグシステムの効果が充分発揮されず、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。
- 同乗者も必ずシートベルトを着用してください。

☆2-24、2-35ページ参照

## ■お子さまを乗せる場合は

- お子さまは後席に乗せてください。
- チャイルドシートは後席に取り付けてください。
- シートベルトが首や顔に当たるなど適正な着用ができないお子さまには、スバル純正チャイルドシートを使用してください。  
スバル純正チャイルドシートの使用方法は添付の専用取扱説明書をご覧ください。
- 助手席にチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。  
SRS エアバッグが作動したとき、強い衝撃を受け、命にかかわるような重大な傷害につながるおそれがあります。

☆1-7、2-46ページ参照

## 燃料補給時の注意

### ■指定燃料を必ずご使用ください

- 無鉛ガソリンを使用してください。有鉛ガソリンを使うと触媒を劣化させます。
- 給油時に指定されている燃料であることを確認してください。

☆1-6ページ参照

- 指定以外の燃料（粗悪なガソリン、アルコール燃料など）を使用すると、エンジンの始動性が悪くなったり、ノッキングが発生したり、出力が低下する場合があります。また、そのまま使うとエンジンや燃料系統部品を損傷するおそれがありますので、指定燃料以外は使用しないでください。

### ■燃料補給時には次のことを必ずお守りください

- エンジンは必ず止めてください。
- 車のドア、窓は閉めてください。
- タバコを吸うなど火気を絶対に近づけないでください。

次ページへ ⇒

⇒前ページより

- フューエルキャップを開ける前に車体または給油機などの金属部分に触れて身体の静電気除去を行ってください。  
身体に静電気を帯びていると、放電による火花で燃料に引火する場合があります、やけどするおそれがあります。
- 必ずキャップのツマミ部分を持ち、ゆっくり左に回して開けてください。
- フューエルキャップはゆっくり回し、燃料タンク内の圧力を下げてから外してください。  
急に開けると燃料補給口から燃料が吹き返すおそれがあります。
- フューエルリッド、フューエルキャップを開けるなど給油操作は必ずお一人で行ってください。
- 給油中、ふたたび車内のシートに戻らないでください。（すわることで再帯電することがあります）
- 給油口に他の人を近づけないでください。
- セルフ補給のときの燃料補給は、給油ガンが自動停止した時点で止めてください。
- その他、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。
- 燃料補給後はフューエルキャップを“カチツ、カチツ”と音がするまで右に回し、確実に締まっていることを確認してください。
- 車に合ったスバル純正のフューエルキャップ以外は使用しないでください。
- 給油中に、燃料を車にこぼさないようにしてください。塗装面を侵すおそれがあります。  
こぼれた燃料は必ず拭き取ってください。

## ■給油時に気化した燃料を吸わないようにしてください

燃料の成分には、有害な物質を含んでいるものもありますので、ご注意ください。

## こんなことにも注意を

### ■クラッチ・スタートシステムについて（マニュアル車）

マニュアル車にはエンジン始動時の誤操作防止機構（クラッチ・スタートシステム）が装着されています。

クラッチペダルをいっばいに踏み込まないとスターターが回らずエンジンがかかりません。

☆3-30ページ参照

### ■AWD車は万能車ではありません

AWDとは、All Wheel Drive（オールホイールドライブ＝全輪駆動）の略です。4輪車では4WD（四輪駆動）とも呼びます。

二輪駆動車に比べて滑りやすい路面、積雪路などではより安定した走行ができますが、急ブレーキ、急ハンドル時は差がありません。安全な速度で走行してください。

☆3-47ページ参照

## ■ 走行中は携帯電話を使わないで

法律により、自動車の運転者が走行中に携帯電話等を手で保持して通話したり、メールの送受信等のために画面を注視することは禁止されています。



100237

## ■ アクセサリーの取り付けに注意

ウィンドウにアクセサリーを取り付けると、視界の妨げになったり、吸盤がレンズの働きをして火災を起こしたり、助手席 SRS エアバッグが作動したときアクセサリーが飛んでけがをするなど思わぬ事故につながるおそれがあります。

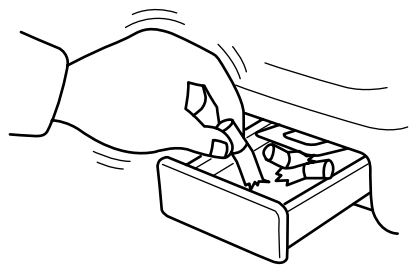


100238

## ■ 灰皿※を使用したあとは

マッチ、タバコの火を確実に消し、必ず閉めておいてください。また、可燃物や多量の吸ガラを入れておかないでください。火災になるおそれがあります。

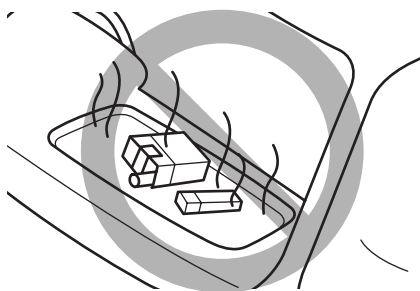
※ 灰皿はディーラーオプションです。



100081

## ■車内にガスライター、スプレー缶等を放置しないで

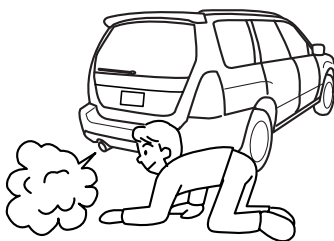
炎天下で駐車するときは車内にガスライターやスプレー缶等を放置しないでください。車室内が高温になるためライターやスプレー缶等が爆発するおそれがあります。



100239

## ■排気管をときどき点検して

排気管の腐食などによる穴や亀裂および継ぎ手部の損傷など、排気管の異常に気づいた場合は、必ずスバル販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、一酸化炭素中毒になるおそれがあります。



100025

## ■リヤゲートを確認して

リヤゲートが閉まっていることを確認してください。確実に閉まっていないまま走行すると排気ガスが車内に侵入し一酸化炭素中毒になるおそれがあります。

## ■ラジエターが熱いときキャップを外さないで

ラジエターやリザーブタンクが熱いときはキャップを外さないでください。蒸気や熱湯が吹き出すおそれがあり危険です。

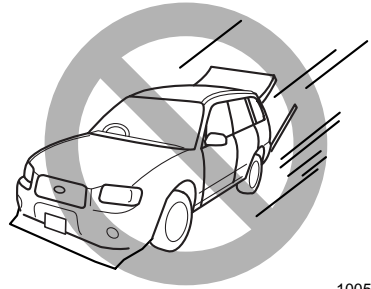


100561



## ■不正改造は絶対にしないで

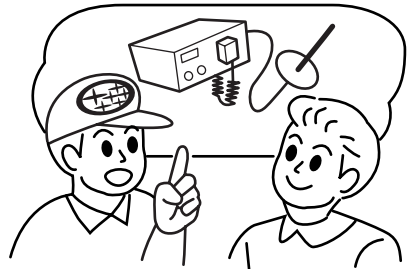
- 車の性能や機能に適さない部品を取り付けたり、自己流のエンジン調整や配線などを行わないでください。火災など思わぬ事故につながる場合があります。
- スバルが国土交通省に届け出した部品以外のものを取り付けると不正改造になることがあります。スバル販売店にご相談ください。(タイヤ、ホイール、マフラーなど)



100562

## ■電装品、無線機を取り付けるときには

取り付け、取り扱いを誤ったり、スバル純正以外の部品を使用すると、電子制御系統に異常が起きたり、火災など思わぬ事故につながるおそれがあります。  
スバル販売店にご相談ください。



100069

## ■純正部品をお奨めします

- マフラー、エアクリナーエレメント、オイル、冷却水、オイルフィルター、タイヤチェーンなどの部品は、スバル純正部品の使用をお奨めします。純正部品以外を使用すると保証を受けられない場合があるばかりか、故障の原因になることもあります。例えば、マフラーやエアクリナーエレメントの変更はエンジンの損傷を招くおそれがあります。純正部品は、スバル車に合うよう厳しい検査を実施して作られています。
- 詳しくは「保証書・メンテナンスノート」をご覧ください。



100070

## ■点検整備をするときは

- スバル販売店はスバル車を点検整備するための設備、技術、知識の全てを兼ね備えております。お客さまが安心してお車にお乗り頂くためにも、点検整備はお近くのスバル販売店にご用命ください。
- 日常点検整備でエンジンルーム内の点検を行うときは、エンジン高温部、回転しているプーリーやベルト、自動的に回転する冷却ファンに充分ご注意ください。思わぬけがをすることがあります。
- AWD車でエンジンを回したまま点検を行うときは、車が動かないようにするため、必ず4輪ジャッキアップ、または4輪ローラー上で行い、空吹かしや急制動はしないでください。

## 保証書・メンテナンスノートについて

別冊の「メンテナンスノート」には、保証の内容および点検・整備について記載してあります。ご使用前に必ずお読みください。

### ■保証について

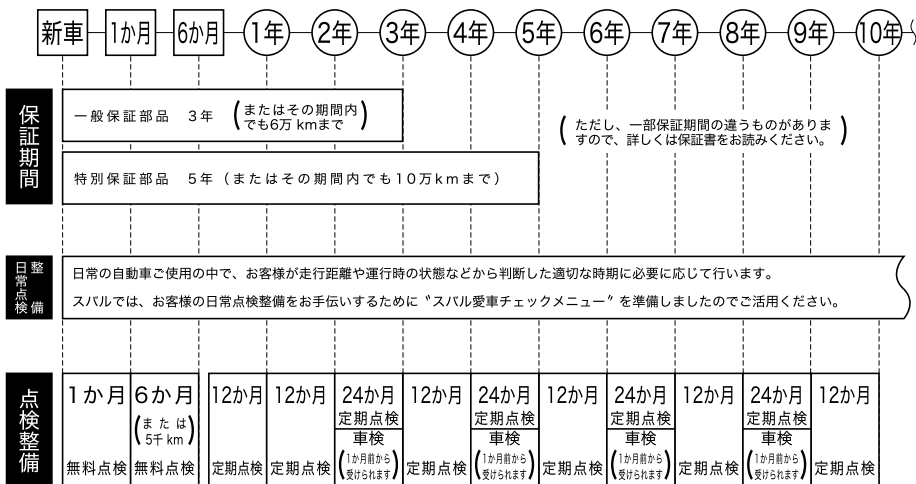
保証書には、万一故障が起きたときに無料で修理が受けられる条件や範囲が記載してあります。

一度お読みになり、条件や範囲などについてご確認ください。

### ■点検・整備について

- 法律で使用者に点検・整備の義務が規定されており、使用者の保守管理責任が明確にうたわれております。
- メンテナンスノートには点検・整備の時期ややりかたなどが記載してあります。よく読んで必ず行ってください。
- 日常点検整備や他の点検整備を行ったときは、必ずその結果をメンテナンスノートに記入しておいてください。
- 納車してから1か月後および6か月後（ただし、6か月以内に走行距離が5千 kmを超える場合は5千 km時点）に新車時点検を無料で実施しております。

## 保証期間と点検整備時期



100075

必読！安全で快適な運転のポイント

## 環境にやさしい運転

### ■環境にやさしい運転をするには

常にタイヤの空気圧を適正にしましょう。

適正空気圧で50 km 走行すると50 kPa (0.5 kg/cm<sup>2</sup>) 減のときに比べて、ガソリン約150 ccの節約になります。

\* CO<sub>2</sub> 約1,250 g削減 (650 km/月)

走行する前に、不必要な荷物は降ろしましょう。

10 kgの荷物を降ろして50 km走行すると、ガソリン約15 ccの節約になります。

\* CO<sub>2</sub> 約130 g削減 (650 km/月)

長時間停車するときは、エンジンを止めましょう。

5分間のアイドリングを止めると、ガソリン約65 ccの節約になります。

\* CO<sub>2</sub> 約420 g削減 (10回/月)

## 空吹かしはやめましょう。

空吹かしを1回やめると、ガソリン約6 ccの節約になります。

\* CO<sub>2</sub> 約1,150 g削減 (300回/月)

## エアコンの使用は、少し控えましょう。

エアコンを6分間OFFにすると、ガソリン約70 ccの節約になります。

\* CO<sub>2</sub> 約130 g削減 (3時間/月)

## 発進や加速はスムーズにしましょう。

急発進を1回やめるとガソリン約17 cc、急加速を1回やめるとガソリン約11 ccの節約になります。

\* CO<sub>2</sub> 約360 g削減 (各20回/月)

## 経済速度で走行しましょう。

- 一般道路や有料道路では、法定速度で走行すると燃費が良くなります。
- 高速道路では、100 km/hより80 km/hで走行すると燃費が10～30%向上します。
- 下り坂や減速時には、エンジンプレーキを使いましょう。燃料噴射が停止し、燃費向上につながります。

### 🏠 アドバイス

#### 10・15モード燃費とは

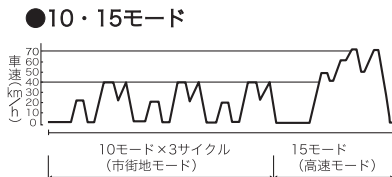
車両カタログに記載されている「10・15モード燃費」とは、一定条件にしたがって測定した燃費です。

このモードは、市街地モード(10モード)と高速モード(15モード)の2パターンを測定したものです。

測定方法は、10の走行パターンを想定したテスト(市街地モード)を3回行い、続けて15の走行パターン(高速モード)を想定したテストを1回行います。

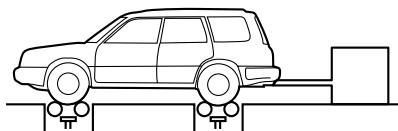
平均速度：約23 km/h

走行距離：約4.2 km



100639

この測定は実走行ではなく、測定装置（シャシーダイナモメーター）上に車両をのせて行います。



100640

「10・15モード燃費」は、都市内走行状態を想定して測定したもので、実際の走行とは異なる場合があります。

例えば、天候や路面、車両重量、運転等に応じて燃費が異なります。

対象車種は2.0L乗用車（オートマチック車）の燃費11.7 km/L（10・15モード）を基準に計算してあります。

参考資料：社団法人日本自動車工業会「あしたへ ECO-MOTION」参照

# MEMO